



発行所 アシュラムセンター  
523-0894 近江八幡市中村町 567-2  
Tel 0748-33-4030  
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ  
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772  
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

果たして、パウロは奴隷制  
度に対して反対していたの  
か、それとも容認していたの  
か。「あなたがたは身代金を  
払って買い取られたのです。  
人の奴隷となつてはいけませ  
ん」(1コリント7:23)。  
今月選ばれたみ言葉は、パ  
ウロがコリントの信徒たちへ  
与えた「奴隷制」に関する具  
体的な勧告である。結婚につ  
いて、訴訟について、偶像に  
備えられた肉についてなど、  
日常生活に関する様々な問題  
やトラブルに関して、パウロ  
は事細かく、懇切丁寧に教え  
諭す。もちろん、当時の社会  
通念や常識、またパウロの神  
学が、世の終わりの切迫感の  
中で、その論を展開している  
ことなどを無視し、ただ現在  
の価値基準に当てはめて、そ  
の正否を評価することは正し  
いことではないだろう。  
けれども、今この時代の中  
で、かつてパウロがどのよう  
に考え、また教えてきたかを、  
聖書を通して黙想することは、  
格差社会の問題や外国人労働  
者との向き合う現代の私たちに  
とっても、大変重要なものな  
のではないだろうか。  
街のコンビニに行けばレジ  
打ちする外国人労働者に出会  
うことが珍しくなく、富める  
者はますます富み、貧しき者  
は、さらに貧しくなる、この  
理不尽な時代に、私たちは「人  
の奴隷となつてはいけません  
ん」というパウロの言葉をど

う受け止めるのか。  
さて、奴隷制をめぐるこの  
勧告の最初に、パウロはこう  
書く。「おのおの主から分け  
与えられた分に応じ、それぞ  
れ神に召された時の身分のま  
まで歩みなさい。これは、す  
べての教会でわたしが命じて  
いることです」(1コリント  
7:17)と。  
やはり「人の奴隷となつて  
はいけません」という言葉も、  
それは心のありようの問題に  
過ぎず、制度としての奴隷制

瞑想

あなたがたは身代金を払って買い取られたの  
です。人の奴隷となつてはいけません。  
Iコリント7:23

ら、それを心の中で信じ、待  
ち望みなさい、と告げるだけ  
で良いのであるうか。  
ここで、私はもう一つ、パ  
ウロが弟子フィレモンに書き  
送った手紙を読んでもみたいと  
思う。この短い手紙には、主  
人の元から逃げ出した奴隷を  
送り帰そうとする、パウロの  
思いが書かれている。主人の  
金を盗み、逃亡の果てにパウ  
ロのもとに辿り着き、そこで  
福音に出会い、改心し、今や、  
獄中の彼の身の回りの世話を  
するまでになつているオネシ  
モを、パウロはその主人フィ  
レモンの元へ送り返すという  
のである。ここまで書くとい  
うほどと同じく「どうしてパ  
ウロは奴隷を送り返さず、  
守ってやらなかったのか」  
「結局彼も奴隷制度の容認者  
であり、その根本的解決には  
目をつぶる、現状肯定派の人  
物なのか」と落胆する向きも  
あろう。しかし、私は、短い  
が、決して高圧的ではなく、  
むしろ控えめで、心のこもつ

主幹牧師 榎本 恵

た、この手紙を読む時、全く  
別の意味で、パウロの奴隷制  
に対する想いに触れるのだ。  
「私はあなたのなすべきこ  
とを、キリストの名によつて  
遠慮なく命じてもよいので  
すが、むしろ愛に訴えてお願  
いします」(フィレ8)とパウ  
ロは語り、「わたしの心であ  
るオネシモを、あなたのもと  
に送り帰します」(フィレ12)  
と告げるのだ。そして「オネ  
シモをわたしと想つて迎え入  
れてください」(フィレ17)  
と懇願する。なんとしたこと  
だろう。パウロはこの本来な  
らばどんな罰を、死さえも覚  
悟しなければならぬはずの  
逃亡奴隷を、自分の心と呼び、  
自分を受け入れるように、兄  
弟として受け入れるようにと  
訴えるのだ。もうそこには、  
奴隷制度が人権にもとると  
か、所詮教会は、現状を追認  
する改革の妨げに過ぎないな  
どと言う議論など、入り込む  
余地などないほどの挑戦的な  
言葉ではないだろうか。  
友よ、もちろん奴隷制度は、  
決して認められるものではな  
い。しかし、それを声高に唱  
える前に、あなたにオネシモ  
はいるか。「わたしの心」と  
呼び、「わたしと想つて受け  
入れてほしい」と、あのレジ  
を打つ彼女を彼を見ている  
か。私には「人の奴隷となつ  
てはいけません」というパウ  
ロの叫びが、そう聞こえてく  
る。

第9回

岩松アシラムに参加!

脇 萬里子 していた。

イエスは主なり!  
2019年10月14日 (月) 念願の岩松アシラムに参加。  
主題聖句ルカ17:21とエフェソ3:16  
毎月送られてくる「アシラム」誌の予定欄により、毎年祈りに覚えさせていた

交通手段!JRで宇和島駅へ、バスに乗り換えて岩松教会近くの最寄りバス停まで!、あるいは高速を使つて車で?前泊か?等々・・・思いがままらない中、何と!今回はわが教会の宇賀充牧師が出席するという



第9回岩松アシラム(2019年10月14日)

代ではあったものの義妹の就職の相談のため伊予三島の地より夫と共に訪問させていた。いたり、家族同様の従業員の方を、農業を営み、妻を亡くされ小さい子どもさんたちのいる三島真光教会の方のもとへ嫁ぐように計らわれたり、教会が火事で焼失した時には遠くより駆けつけてくださって「神のみわざが現れるため!」と力強く励まし祈り、支えてくださった。そのような主にある交わりの中にあって一度は岩松アシラムに参加させて

ムについての丁寧な説明文がある。参加者20名、祈禱院に前泊の方もおられた。高知、今治、松山、大洲、宇和島、四国中央(旧伊予三島)、遠くは姫路より。開会礼拝「神の国の福音」メッセージは新垣達也牧師。ファミリーの開心の時、2度の静聴の時(マタイ5・6章)、ファミリア恵みの時、充滿の時。写真撮影や昼食と交わりの時を含むと、一日アシラムは何処でもそうかもしれないけれど、なかなかハード。けれどもここでもまた、お互いを覚えて祈ることのできる新しいファミリアが与えられ感謝。岩松教会の方々のご奉仕に感謝。

岩松の地に会堂と祈禱院を建てられた中川義雄兄とは榎本保郎先生の第1回台湾アシラムにご一緒させていただいた。洋服屋さんで縫製もされていたので、交通の便の悪い時

に静まりたい」という思いが私の中に続いておりました。アシラム、アシラム、と思っていた所、義母の所属教会と非常に親しい加々美先生が京浜ア

岩松の地に会堂と祈禱院を建てられた中川義雄兄とは榎本保郎先生の第1回台湾アシラムにご一緒させていただいた。洋服屋さんで縫製もされていたので、交通の便の悪い時

に静まりたい」という思いが私の中に続いておりました。アシラム、アシラム、と思っていた所、義母の所属教会と非常に親しい加々美先生が京浜ア

京浜アシラムに参加して

水野 成俊

岩松の地に会堂と祈禱院を建てられた中川義雄兄とは榎本保郎先生の第1回台湾アシラムにご一緒させていただいた。洋服屋さんで縫製もされていたので、交通の便の悪い時

に静まりたい」という思いが私の中に続いておりました。アシラム、アシラム、と思っていた所、義母の所属教会と非常に親しい加々美先生が京浜ア

- ご献金者 敬称略 11月分
村瀬 俊夫 後天 良雄 朝子 和子
神山 朝子 和子
榎本 本るつ子
取神
ミニアシラム 晶久 栄子 司 義明 和志 喜久 千歳 京子 昭子
今泉 林市川 山岡 山田 山田 山越 上柳 香川 佐賀 正岡 正岡 榎本 河村 河村 白鳥 福岡 聖書教室 明石 シオン 千博 荒木 松平 千鶴子 第20回
愛知アシラム 樋口 洋一 渡辺 美寿子 光太
榎本 チャイム コソート (池田 チャイムの会) 京子 静子 清子 公一 澄子
西本 美恵子 浩子 正喜 和 千代 基 戸 ちひろは教師 記念チャペル 夕礼拝
岡田 大坂 聖書教室 川口 博司 光代 軽井沢
アシラム 日出 栄子
家形 西野 カフェ ちろは 聖善人講壇 大山 悠子 常任運営委員会 足立 タスク コ 彩子 センター 聖書教室



第20回 愛知アシュラムに参加して

澤田 透

一泊アシュラムに初めて参加し、岩波先生を始め皆様の話しを伺い、自分と違った視点・背景・想いがあるのを感じました。自身の見えなかった事や一人一人の事を覚えて祈って下さる方がおられ、感謝と思いやり(どんな状況でも話す人が違って落ち着いて対話する事)の大切



さも感じて、とても良い糧を得ました。特にファミリーの方々には、今後の事を思い、出来る限りの祈りをして行きたいです。

静聴の時には静かな部屋で色々な想いと御言葉を照らし合わせて考える事が出来て、その後の恵みの交わりの中にも活かせられて、感謝です。

まだまだ、奉仕も中々協力出来ないでいる中、一つ一つの事柄、出会いを大切にしたいです。

皆様の誠意・愛・経験・祈りを学びながら今後様々な事に活かして行きたいです。

(日本聖公会 名古屋聖マタイ教会)

証し ①

石田 哲夫

1.はじめに (第24回北陸富山アシュラム早天祈祷会にて)

40年ほど前ですが、富山市の名鉄ホテルで精神科医師会の主催で、当時淀川キリスト教病院の副院長であられた柏木哲夫先生をお招きし、「ホスピスにおける心のケア」と題する講演がありました。その講演後、「精神障害者の心のケアとホスピスにおける心のケアの違いについて」の質疑応答がありました。そこで柏木先生は「精神疾患の病的体験(幻覚、妄想)は誰もが経験できるものではなく極めて特殊な体験であるが、ホスピスにおける心の問題は人として誰もが追体験する道程であり共感できるものである」と述べ、日本人の心の癒される情景を、緑の木々に囲まれた中を小川が流れ、池があり、そこに魚が泳いでいる庭にたとえて話されたことを思い出します。

あの講演の当時も今日も精神障害者の心の問題を特殊な病的体験と捉える見方はそれほど変わっていないのですが、ストレス社会のなかで個人を取り巻く環境は病的体験を特殊なケースとして片付けられない社会問題となっており、40年前とは異なり精神疾患の病的体験は特殊事例としてではなく誰もが追体験出来る事例として捉えねばならないところに現代社会の病根の深さがあると思われます。(無教会 金沢畝田聖書集会) (続)



春を先駆ける杏の開花 石田兄 金沢市(犀星生誕の地)にて撮影、第6回北陸金沢アシュラムしおり表紙より

『あんずよ 花着け 地ぞ早に輝け・・・』

あとがき

新しい年が始まった。中東では、戦争の噂が聞こえ、除夜の鐘の音と共に、容疑者ゴーンは逃げていった。疑惑の政治家たちは説明責任を果たすどころか、その疑惑は一層深まるばかり。一体2020年は、どんな年になるだろうか。そんな思いを感じている人も多いだろう。しかし神は真実な方である。必ず、神は良きものを持って、私たちを守り導いてくださる。

アシュラムセンターは、その開設から45年となった。ここまでの道のりは、決して平坦な安楽のものではなかっただろう。しかし、神は、このアシュラム運動を守り導いてくださった。誠に感謝なことである。センター常任運営委員会では5年後の50周年記念を目指し、今年から準備を始める。どうか、皆様方の祈りとお支えをお願いしたい。

時代は、どんどん厳しいものとなって行くだろう。しかし、どんな時であろうと、「神の真実」だけを信じ、祈りつつ前進して行きたいと思っている。

「主よ、あなたは近くいて下さいませ。あなたの戒めはすべて真実です。」(詩119:151) (恵)

# 早天祈祷会の喜び

後宮 松代

まよ

5年前の年頭アシラム数日後、突然の病に。しかし、多くの祈りの中で助かり、車イスにて主を喜ぶ日々。早天祈祷会も長女夫妻と共に再開。

早天祈祷会の終わった時、何とすばらしい嬉しい気持ちでしょう。此の世のどの様な宝を与えられても、このような嬉しさはないだろうと思います。十余年前、兄（榎本保郎牧師）から早天祈祷会と伝うものを奨められた時には、こんなつらいものは無いと思いました。もっとゆっくりと寝床に居た方がどれ丈気持ちよいか知れないと思いました。週にたった一度の早天祈祷会でもこれが無かったら、どんなによいだろうかと思いました。その同じ私が、此の頃では早天祈祷会が何にも代えられない喜びとなって居ります。「神様、兄を通して、信仰の秘訣を教えてくださいましてありがとうございます」と伝わずには居れません。

このような喜びを味わっていても、中々これが変わらずに続くというものではありません。何だか空しいことのくり返しのように思えたり、よろこびが湧かなく、力も与えられないのにも思ったりする時もあります。全く悪魔の働きだと思うのですが、本当に朝毎の祈り続けることの難しさを感じます。悪魔にとらえられて、あたたかいふとんの中で心地よくうとうとしていることが好ましいなど思っている時にも、只几帳面に祈りの火を消さずに、毎朝の祈りをしていてくれる主人に励まされます。

夜、一日の生活にくたくたに疲れて、消え入りそうな思いで床につき、悪夢になやまされる

一夜を送った時も、ふと目覚めて、思い切って床を起き出して祈った後は、全く晴れ渡ったような心境です。現実には時々こんな事があります。昨夜むつかしい問題にぶち当たって悩んだり、その日の出来事にいろいろのつぶやきをしたりし



お料理、何にしよう？  
後宮先生からの電話、まだかな？

た朝、神様が昨夜のことを全部知っておいになるようなピッタリした慰めの言葉や、励ましの言葉を与えられるのです。今、教会の早天祈祷会は旧約聖書を一章ずつ読み進んでいるのですから決して問題に当たって適当な聖書の箇所を探したと云うのではないのです。こんな不思議に出会うと、神様の摂理をひしひしと感じます。この取るにも足りない者のために、生きて働いて下さる神様に感謝しないではおれません。こんなすばらしい恵を感じても又々先に申しましたようなみじめな思いに捕われることがあるのですから、本当にイエス様の十字架にすがる他しようの無い私である事がわかります。

昨年からの祈りの集いから、今年の祈りの集いへと、ともし続けられている祈りの火、ある時は、ほんとに今にも消えそうに細々としている火、或る時は、多くの聖徒によって大きな火と燃えたりして続けられて来て居ります。

11月2日からの第6回の祈りの集いに於て、もう一度祈りの火が勢いつけられる事と思います。信仰生活の秘訣を時にもう一度新しくいただき度いものと昨日も一人の姉妹と話し合いました。恐らく祈りのよろこびを経験された方々すべてのねがいだらうと思います。皆様とお会い出来る日を楽しみにお待ちしております。（1965年10月17日発行のガリラヤ誌より）

（日本キリスト教団 甲西伝道所）



主日礼拝に出席できるのも、松代姉の喜び。  
小西牧師の説教に目を輝かせ  
☆（目、耳共に弱っておられるが）

2月の聖書教室など		【主な問い合わせ先】 0748-33-4030 アシュラムセンター
7(金)	阪神ミニアシュラム (主恩教会 PM1:00) (3月は6(金))	
10(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30)	
23(日)	ちいろば牧師記念チャペル夕礼拝・愛餐会 (PM5:00)	
24(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 AM10:30~、PM2:00~)	
25(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)	
25(火)	桜美林リトリートアシュラム (桜美林大学荊冠堂 PM2:30)	
26(水)	カフェちいろば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30)	
28(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00)	
29(土)	広野祈りの家 (兵庫県三木市志染 PM1:00)	0794-85-1147 猪瀬和子姉

2月のアシュラムなど		
1(土)	第50回記念 呉アシュラム (日本アライアンス呉教会) 奉仕者 櫻本恵師	0823-21-8571 呉アシュラム事務局
17(月) 19(水)	第17回 国際正義平和アシュラムin台湾	0748-33-4030 アシュラムセンター
19(水) 21(金)	台湾アシュラムツアー	0748-33-4030 アシュラムセンター

3月のアシュラム予定		
5(木) 6(金)	第46回 松山アシュラム 奉仕者 寺尾雅生師	089-983-1164 松山アシュラム友の会 寺尾
21(土)	第2回 茨城アシュラム 奉仕者 櫻本恵師	03-3793-4624 山本悦子師

2020年4月以降のアシュラム予定		
4月17~18日	第27回 三重アシュラム	
4月29日	第23回 阪神一日アシュラム	
5月15~16日	第7回 北陸・金沢アシュラム	
5月26~28日	第45回 教職アシュラム	

お正月、千客万来!



ニューヨークアシュラムの友、園田姉(左)と友人望月姉(てる子師同僚)



ブラジルからアシュラムの友、8名サッカー、ダンス伝道



新潟からも! るっちゃん福音食堂のお雑煮を共に



るつこ姉の家族せいぞろい!!

みことば



元アシュラムセンター代表・常任運営委員長  
元日本キリスト教団甲西伝道所牧師  
後宮 俊夫 師(2018.12.23召天 96歳)

あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、おそれてはならない。おののいてはならない。 ヨシュア 1:9

このことは何も伝道に限らない。わたしたちの日常の生活に於ても然りである。信仰に立って、生活をして行こうとする時に、色々な困難に出会う。いろいろな恐れが生じて来る。本当に神様にたよって大丈夫なのだろうか。このせちがらい世の中にそんなことですんで行くだろうかと考えさせられる。教会の会堂建築の募金をしているとき、ある知人が(この人はキリスト教を知らない人であるが)建築の予算1千万円のうち半額が、略確実な収入額で、残の5百万円については未だしっかりした目途があるわけでない聞いて、「よくそんな危ないことをしますなあそれが出来なかったらどうするのです」と問う。それは主がなし給うことで、神様がして下さることを信じていますと答えると、「世の中がそんなに、神様神様で行くなら苦勞はないよ」と嘲る様に言った。誠に、此の世のことばかりに目が注がれていると、そのようにしか考えられないであろう。そして、大抵の人がそのような考えている。神様、神様などと言っているも神様はそんなにわたしのことをして下さらない。自分のことは自分でして行かなければ駄目だと思っている。そして神の言葉に従って行くことは何となく、不安なように思うのである。その不安を乗り越えて、主の言葉に従って行く時に、それらの不安は全く危惧であったことが分る。御言葉に全く委ねて歩んだ時に、主の言葉の確かであることが分る。確実であることが分ったら、御言葉に従って行こうと考えていたのでは、いつまでたってもその確実なことを知ることが出来ない。

ところが、わたしたちはその思い切って委ねると言うことが中々出来ない。それは神の力によってなし得るところである。わたしたちがただ主に祈り求めて行く時、主は聖霊を下さって、御言に従う力を与えられる。御言に従ってその確かなことを知る時わたしたちの世のあれこれに対する一切の恐れはなくなるのである。

この新しい年、わたしたちが福音宣教の戦いを積極的に進めようとする程、大きな抵抗に出会うであろう。然し、恐れることなく、主が共にいて下さることを信じて前進して行こうではないか。主は御言葉の確かであることを証して下さる

1963年出版「ガリラヤ」(日本キリスト教団 世光教会「祈りの集い」の機関紙)より